

消化器・肝臓センター NEW-す

NO. 65

2020.11

消化器がんチームの活動が 雑誌に掲載されました

医療現場では、手術、抗がん剤、放射線などの集学的治療がめざましい進歩を遂げています。それに伴い、高度化複雑化する治療の意思決定に戸惑う患者さんに遭遇する機会を多く経験します。厚生労働省は、多種多様なスタッフが各々の高い専門性を前提として、患者さんの状況に対応した医療を提供する「チーム医療」の推進が必要と述べています。

KJ法による

バラエティ豊かな

意見の抽出



チーム医療に

おけるKJ法の

有用性

当院は2016年に「消化器がんチーム」を立ち上げました。構成員は消化器外科の医師を中心に看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、メディカルソーシャルワーカー、医事課など多職種です。活動は主に勉強会をおこなっています。医師だけでなくそれぞれの職種がトピックスや活動等を発表し、お互いの理解、連携の輪を高めています。その他の活動としてチームワークの向上を目的として、バラエティ豊かな意見が抽出できるとされているKJ法を使った症例検討会を行ないました。

KJ法とは、川喜田二郎氏がデータをまとめるために考案した手法です。1つのデータ（情報）をカード（用紙）に要約して記述し、数多くのカードの中から似通ったものをいくつかのカテゴリーにまとめ、それぞれのカテゴリーに見出しをつけ、ケアを検討していく方法です。

KJ法を用いることで多職種の立場からの様々な意見が反映されました。一般的に症例検討会では医師の意見が反映しやすい傾向にありますが、KJ法では新人からベテランまであらゆる立場の医療スタッフの意見が同じ重みで反映させることができるため、チーム医療において有用であると考えます。またこの取り組みは「A病院の消化器がんチームにおけるKJ法を用いた症例検討会」と題して雑誌「がん看護9・10月号」

（患者報告型アウトカム
Vol.25 No.7 2020年
9-10月号 695-699）
に掲載されました。

今後もチーム医療の推進でよりよい医療の提供に努めます。



市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865

6階病棟看護師
西川 貴子

